

阿部獣医師からのたより

梅が散り、桜が散って桃とつつじの季節になろうとしています。元々はこちらの人種ですが、27年間の道東暮らしで体の仕様は変化しているらしく、周りを見渡すと私一人半袖で汗をかいております。

先日は、「マネージメント情報」をご送付いただき有難うございました。お返しに「壱岐診療所便り」をお送りしますのでご笑納下さい。そちらのボリュームとは格段に劣りますが、昨年10月から私が中心で始めた取り組みです。こちらには繁殖和牛が6,000頭、他に子牛と肥育とを合わせて12,000頭の和牛が居ます。農家総数は約1,000戸あり、そのお便りを刷って配るのは大変な作業です。そのため、「ガンバってA3裏表」が限界です。当地はご高齢の方が非常に多いので、「字が小さい」とのクレームを受けていますが、「これ以上字を大きくすると、内容がないよーになりますので・・・」と受け流しております。当初、ネタ切れするから半年に一度にするよう抵抗勢力からの揶揄がありましたが、御社在職中の社長の皆勤賞を思い出しながら、執筆・編集しております。

さて、少しばかり当地の獣医療について報告します。当家畜診療所は壱岐市の市営です(全国でも珍しいと思われる)。市営へのいきさつはすべて述べることはしませんが、大まかに言うと:超小規模&多数農家への対応を模索した結果です。現在10名の獣医師が約100件ずつ受け持って(農家担当制)依頼に応じています(お産が始まったから助けて・・・とか)。ご高齢の小頭数&兼業農家ですから、牛の衛生に関わることはほとんど請け負います。ですから往診依頼も「元気はあるけど咳がきこえるので・・・」とか、「元気はあるけど下痢気味だから・・・」とかが多いのです。元気がなくなってしまうと他の仕事ができなくなるから大変だからです。農家が対応するのは内服薬だけなので、必要なら連日1本の注射を打ちに通います。まあ一日十数件回っても、走行距離は150KMほどにしかありませんからそちらとは違います。本当に申し訳ありませんが『楽させてもらってます』。

とは言え、私なりに気付いた問題点を解決すべく精を出しています。例えば、前述の「診療所便り」は[編集長]を、また新しい去勢器具の開発では[阿部工房 工場長]を拜命しております。

そして、本業では「獣医局長」となり主に技術面のリーダーとし

て統括する責務を負っています。

そこであえて申すならば、御社（株）トータルハードマネジメントサービスの底力は「高い倫理観とユーモアの融合」にあると確信しました。これはなかなか改革することはできない器（うつわ）的部分です。しかしながら、あきらめずに改善したいと M 情報を手にして思いを新たにしております。それもこれも、御社で働かせていただき、農家の皆さんといた 15 年間があったからこそです。「やらねば」という思い（志）を今抱かせて頂いていることに感謝いたします。

まだ寒さも残る季節です。皆様お体を大切に、がんばってくださいね～～。

阿部紀次